「NPO博多の風」広報誌
風人 特別号

第15回 楽文（らくぶん）コンテスト

各賞受賞作品発表!!

君が大好きなこと

君の家族のことや友達のこと、
大好きなお祭や夢中になっている事。
いろんな君の『大好き』を教えてください。
詩・作文・歌、君にあった方法でかまわない。
一行でも、誤字・脱字、
ぜんぶひらがなでもOK。
じょうずじゃなくていい。
そう、「楽文」でいいんです。

◎主催 …… NPO特定非営利活動法人 博多の風
◎特別協賛 …… NTT docomo
◎協力 …… 博多祇園山笠振興会、（株）毎日新聞社、RKB毎日放送（株）
◎選考委員 …… 豊田侃也氏（博多祇園山笠振興会 会長）
永守良孝氏（RKB毎日放送 代表取締役 会長）
沢田幸二氏（KBC九州朝日放送 パーソナリティ）
大庭宗一　（NPO博多の風 理事長）

◎協賛 …… 西部ガス（株）、西日本鉄道（株）
◎後援 …… 福岡市、福岡市教育委員会、福岡商工会議所
（社）九州経済連合会、（株）岩田屋三越、九州電力（株）
九州旅客鉄道（株）、（株）九電工、コカ・コーラウエスト（株）
（株）西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、（株）福岡銀行
［順不同］

第41号
平成27年11月発行

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
http://hakatanokaze.jp

平成26年

4月　第32回　NPO博多の風フォーラム　開催
講師：大庭 宗一氏（NPO博多の風 理事長）
6月　第13回　追山コース探訪　開催
第14回　楽文コンテスト　開催
11月　第33回　NPO博多の風フォーラム　開催
講師：八木　繁氏
（九州電力株式会社　原子力コミュニケーション本部部長）

平成27年

4月　第34回　NPO博多の風フォーラム　開催
講師：因幡　敏幸氏（春日大野城那珂川消防本部）
6月　第14回　追山コース探訪　開催
第15回　楽文コンテスト　開催

NPO博多の風の歩み

■設立
平成10年　9月
任意団体『博多の風』設立　代表：大庭宗一

■NPO登記
平成12年　6月
『NPO博多の風』として登記　理事長：大庭宗一

NPO博多の風事業概要

■啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール（楽文コンテスト）j開催

■地域環境向上事業
・博多の町親交
（清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承）

■活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催

■協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人
博多の風
〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX　092-263-7188
E-Mail　info@hakatanokaze.jp
URL　http://hakatanokaze.jp

題字：新井光守 風人

分の苦手な物やこわい物、自分の気持ちをだれかに伝えたり、助けを求めることができないので、急に大声で泣いたりパニックを起こすので時々困ってしまいます。弟が辛いのを分かっていても怒ってしまうこともあります。

でもぼくは、そんな弟が好きです。弟は今、小学３年生です。学校で色々なことを勉強したり友達と過ごして成長しています。弟は本当に記憶力がすごくて、生まれてから今までのこと、例えば出会った人の名前や顔、出かけた場所やその時の天気、風景、家族の着ていた服など、本当によく覚えていて今でも話してくれます。

ぼくも弟みたいな記憶力があればなと思うことがあります。でも、その記憶力のために、昔の辛かったことや悲しかった経験を忘れることができなくて、時々思い出して辛くてたまらない気持ちになることがあるのだと両親が教えてくれました。いやなことをいつまでも忘れられなかったり、苦手な音がたくさんあったりする弟ですが、苦手なものでも次第になれて我慢できることが増えています。

弟は障がいがあっても、苦手なものから逃げずにがんばって戦っています。ぼくにも、兄としてできることがあれば応援してあげたいです。困ったことや苦手なものがあっても、戦い続ける弟を見て、がんばっているなと思います。これからも共に泣いたり、怒ったり、笑ったり、兄として弟を応援したいです。

「だいじょうぶだよ。がんばれ、せいじ！」

RKB毎日放送賞

わたしはほんがすき

●原北小学校1年　**濱田　朋**

わたしはほんをよむことがだいすきです。ようちえんのころはおやすみのひにとしょかんにいってたくさんのほんをかりていました。

しょうがっこうにはとしょしつというへやがあってたくさんのほんがぎっしりならんでいてびっくりしました。やすみじかんになるとはやくほんをよみたくてまいにちとしょしつにかよいました。ならんでまっているときは、きょうはどんなほんをかりようか、とか、さきにならんでいるひとにかりられてしまうかも、とどきどきします。

いままではえほんしかよんでいなかったけれど、ぶあついほんをよめるようになりました。ぶあついほんはえがすくないので、どんなおはなしかそうぞうしながらよんでいます。

わたしがほんをえらぶポイントはひょうしのえです。たとえば、えがあかるかったらあかるいおはなしだとおもいます。

もうひとつのポイントはほんのだいめいです。かわっただいめいはおもしろいとうじょうじんぶつがでてくるようなきがします。

もくじもほんをえらぶだいじなポイントです。もくじをみてこのほんをよんでみたいとかんじたらきまりです。

わたしはほんをよみだすとほんのせかいにひきこまれてしまいます。おはなしにでてくるひとたちといっしょにでかけたり、あそんでいるようなきもちになります。いっしょにどきどきはらはらします。

ほんをぜんぶよみおえたときは、おもしろかったなぁ、というきもちと、ああ、もうおわってしまってざんねんだな、というきもちになります。

これからもたくさんほんをよんでおはなしのせかいをたのしみたいです。

これぐらいサッカーがすき

●城原小学校2年　**高見　航星**

ぼくは、いえのわしつで、ふすまがこわれそうになるぐらいのつよさでボールをけるから、かあちゃんにおこられる。だけど、いえでもそとでもやりたいときはやる。

サッカーチームのれんしゅうで０点のときもあるからくやしいけど２点１点でもうれしいから、ほんきではしったりてんをきめたりする。でも、れんしゅうのときは、さいごにリレーがあるので、おわったら体ががたがたです。それでもサッカーがすきです。

サッカーチームは、雨の日でサッカーがちゅうしになっても、日本だいひょうはサッカーをやるから、ぼくもそれをしてみたいです。日本だいひょうのコーナーキックのときに、水をのんで水とうをなげるのもしたいです。れんしゅうでけがをしても、サッカーをやります。

どんなにあつくても、どんなにあせをかいても、どんなにまぶしくてもサッカーがすきです。

おとなだけのフットサルにもついていって点をきめます。３点きめたら、じどうはんばいきで、おとうさんがジュースを買ってくれます。いまのところナタデココが一ばんです。

日本だいひょうになったら、むてきになりたいです。なん人でも人をぬけて、スピードもメチャクチャ早くて、シュートもうまくて、トラップもうまくなりたいです。せかい一のプレイヤーになって、日本だいひょうでかつやくして、日本のサッカーチームがせかい一になりたいです。

ぼくの大すきなこと

●香陵小学校2年　**桃﨑　勇斗**

ぼくの大すきなことは、やきゅうです。やきゅうがすきなので、やきゅうスクールに行っています。一年生からならいはじめました。ときどき、バッティングセンターにもつれていってもらいます。もっと上手になりたくて、家の近くのやきゅうチームのたいけんにも行きました。そこで、二ヶ月間れんしゅうをしました。そして、この間しあいがありました。ぼくは、二ばんのセカンドにえらばれました。

「二ばんだから、ぜったいにうつぞ。」

と思いました。はじめて、ネクストバッターズボックスに入ると、五、六年生が、

「ホームランうて。」

と言ってくれました。ぼくは、

「がんばるぞ。」

という気もちになりました。だせきに立つと、むねがドキドキしました。３ボール２ストライクになると、もっとドキドキしました。さいごの玉はよく見て、フォアボールで一るいに出ることができました。それから、ぼくは勇気を出して、とうるいをしました。すると、せいこうしました。うれしかったです。そして、ととうとう、ホームにかえってきました。ベンチにもどると、仲まやコーチがタッチしてくれたので、

「やった。」

と思って、えがおになりました。二だせき目もフォアボールで、三だせき目はサードフライでした。

しあいにはかちました。自分がるいに出て、チームのチャンスをつくって、点数を入れられてよかったです。やきゅうは一人だったらできないけど、みんなで力を合わせたのでかつことができました。本当にがんばりました。

でも、ヒットをうてなかったのは、くやしかったです。もっと、れんしゅうをすればよかったです。

やきゅうせん手を目ざして、これからも大すきなやきゅうを、がんばってつづけていきたいです。

わたしの大すきな家族

●小田部小学校3年　**藤本　愛衣**

わたしは四人家族です。私のほかにお母さん、お父さん、お姉ちゃんがいます。

わたしには大すきな家族がいます。いつでも見守ってくれて、やさしい笑顔の家族がいます。

お母さんは、いつも学校やめんせつでつかれているのに、家事をがんばっているお母さんに「ありがとう」と思いました。そんなお母さんが私は大すきです。その理由は、どんなにつかれていてもお母さんは、いつもやさしい笑顔でいてくれてるからです。

お父さんは、毎日みんなのために仕事をしています。わたしが、一番にかんしゃをつたえたい人は「お父さん」です。お父さんには手紙で「ありがとう」とよく書いていましたが、何で「ありがとう」なのかを書いていませんでした。その「ありがとう」の一言だけでいろんな意味があります。その中でも一番につたえたい意味は、お父さんが仕事をがんばっているからきゅうりょうがもらえ、そのお金で生活をしているから、家族はみんな生きています。お母さんがまだ仕事を見つけていないので、お父さんは、お母さんのためにも２倍がんばっています。わたしは家族のためにがんばって仕事をしてくれるお父さんに、一番かんしゃの気持ちをつたえたいです。

わたしはお父さんが大すきです。

お姉ちゃんは、わたしの遊び相手をしてくれたり、わたしが泣いている時、はげましてくれたりするお姉ちゃんです。夏休みの間は、お父さんは仕事、お母さんは学校で、私はるすばん。そんなつまらない夏休みなんていやだったけど、お姉ちゃんといっしょにいるからこそ、るすばんでも楽しい毎日でした。

やさしいお姉ちゃんに「ありがとう」と思いました。いやを楽しいにかえてくれたお姉ちゃんがわたしは、大すきです。

わたしは「世界で一番家族が大切だ」ということに気づきました。

何をしてもおうえんしてくれるお母さん。

みんなのためにがんばっているお父さん。

何事でもはげましてくれるお姉ちゃん。

わたしは、そんな「家族」が「大すき」です。

がんばらなくちゃ

●金山小学校4年　**小樋井　千里**

「おーい。何しようとかー。だらだらせんではよ走らんかー。タックルタックル。」と今日もかんとくの元気な声がグラウンドにひびきます。私は「もう頭クラクラで走れん。かわりにかんとく走ってくれー。」と心でさけんでいます。

二年生のとき、友達にさそわれたので、弟といっしょにラグビーの体験に行きました。ちゃんとやれるかなと、とても不安でした。

けれど行ってみると同じ学年の女子も二人いて、かんとくもコーチも優しいし、軽い気持ちで入部する事にしました。

最近は、新しい友達も増え、女子も七人になりました。四年生になって、高学年の練習に入る事が多くなり、一週間に二回、土、日の練習です。

「ハァ。」

とみんなのため息も聞こえてきます。私も、暑くて暑くて、きゅうけいしたいのに、きゅうけいできるのは一時間に一、二回。それもたった三分間、練習中に何度も何度もため息をついては走り回っています。きついから休みたい。やめたいと思った事は何度もありますが、きびしいのは、きっとかんとくやコーチが私達に強くなってほしいからだ。

それを考えると、まじめに練習がんばるぞと思い、力がでてきます。私の学年には女子三人しかいません。なので四年生の試合では、三年生の男子が加わり、がんばっていますが負けてしまいます。くやしくてなみだが出る時もありますが、「学年や、せい別のせいではなく、私達の練習がまだまだ足りないんじゃないか。」と思います。きつくてたまらない練習や、試合に負けてなみだを流しても、なぜ好きなのか。続けているのかは、あまり考えた事はないが、きっと、暑い日も寒い日もかんとく、コーチ、そしてお父さんお母さんたちが朝早くからじゅんびしてくれたり、

「おはよう。今日もがんばろう」

と言ってくれたり練習に行く途中では、近所の人が優しく

「行ってらっしゃい、気をつけてね。」

と声をかけてくれます。その一言で私も「がんばるぞ。」と思います。

そういう人達に見守られているから、これまで続けられていると思います。そしてチームには、三十人以上の仲間がいます。

きつい時に、笑わせてくれたり、一しょに行こうとさそってくれたり、はげましてくれたりしてくれます。

それにかんとくのごぼうびが楽しみです。アイスクリームやおかしなどを時々くれます。つかれもすっとびまたがんばるぞーと思います。

しょう来は何をするかはまだ決めていません。でも今、がんばっていれば色んな事にやくだつと思います。

さあ夏合宿です。気合いを入れて、タックルしたり、ふりまわされたりしても、ボールを追って走りまわります。

NPO博多の風賞

僕が大好きなこと

●箱崎清松中学校2年　**諏訪　陸矢**

今、僕が好きなことは、妹と遊ぶことです。

なぜなら、今、妹は一才半で毎日成長に溢れているからです。ある日、急に立ちあがったり、歩き初めたり、言葉を言えるようになったりするので今日は何をするか、いつも楽しみです。最近では、絵本を真似したり、うなずいたりするようになりました。けれど、毎日いっしょにいるのでちょっとの成長に気づかないときがあります。そのときは、久しぶりに会った人に髪がのびたことや大きくなったことを妹に言うのを聞いて成長を実感します。

僕の幼かった頃はおとなしかったそうです。

けれど妹は、暴れん坊で性格が反対です。気にいらないことがあったらすぐなにかにかみついたり物を投げたりと大変です。僕を育ててきた親の大変さが分かる所も妹と遊ぶことのいい所です。

妹と遊んでいると、母が家事が楽にできるので親孝行にもなります。妹の体力には、いつも驚かされます。この前は、寝る前のひと遊びと思い、遊んでいたら、こっちがヘトヘトになっても遊んでいました。結局、一時間ぐらい遊んでようやく寝てくれました。毎日遊んでいても保育園でいろいろなことを覚えてくるので毎日が驚きでいっぱいです。

妹と遊ぶおかげでいいこともたくさんあります。たとえば、毎日のように絵をかかされて、最初の頃は頭にうかんでても、どうかくか分からないものがあったけれど、今はたくさんの絵をかけるようになりました。また、ゴミ捨てや、少しの外出でもついてこようとするので、少しの外出でも運動になります。

妹に、ゲームをじゃまされたり、テレビを占領されたりするので勉強するきっかけになり、テレビ、ゲームの時間も減ります。

このように、妹と遊ぶことで、妹の成長過程を見れて、親の大変さが分かり、親孝行に絵をたくさんかけるようになったり、運動量が増えたりするなどいいことがたくさんあります。時には勉強をじゃまされたりやりたいことができなかったりするけれど、いいことのほうが多いので、僕は妹と遊ぶことが好きです。もうすぐ受験だったりして、妹と遊べなくなるので、いまのうちに遊んでおきたいです。妹になにかをじゃまされたりしても、決して怒らず、常に優しく接してあげたいと思います。

これが僕の大好きなことです。

魔法の薬

●千代中学校2年　**大和　未波**

「十五日間だけ男の子になれる薬があったらなー」と毎年思います。

博多は七月になると活気にあふれます。なぜかって、それは私の大好きな博多祇園山笠があるからです。私の父と兄は山笠に出ており、母と私は炊き出しのお手伝いをしています。

本当は、やまを舁きたいのですが女の子なので出ることが出来ない。でも、男の子になれたら、やっぱり一番はやまを舁きたい。

私の父は若い頃、表の左肩の二番棒に入っていました。今は流委員として、みんなをまとめています。私は父をとても尊敬しています。なのでやまを舁くと同じ左肩の二番棒に入りたいです。

そして、将来的には赤てのごいをもらい、棒組みにも選ばれたい。でもこれはかなわぬ夢です。

私は男に生まれてこなかったことが悔しいですが、グズグズ言っていてもいけないので一生懸命に父と兄のサポート、山にでている男の人たちのサポートをしていきます。

今、私にできることは男の人達においしい料理をつくること、水かけをすることです。

私の学校の友達はほんの少ししか山笠に参加していません。残りの人は恥ずかしいとか、めんどくさいとか言ってでていません。

山笠にでたいけど出れない人はたくさんいると思います。なので、出れる人は積極的に山笠に参加してほしいです。そして、山笠の楽しさをしってほしいです。

私は改めて、山笠の素晴らしさに気付けました。山笠は、一つの物をみんなで協力して動かします。決して一人でできるものでもありません。十五日のフィナーレはタイムをきそい合います。男の人達も目の色が変わり、一致団結してものスゴいスピードでやまをはこびます。男の人たちの目の輝き、タイムが良くてのよろこびかなしみ全ての終わりを合図する手一本。すべてが私の中では新鮮で気持ちが高なります。

こんな素晴らしい祭り「山笠」が私は大好きです。

私が嫌いで、大好きなもの

●照葉中学校3年　**内立元　りん**

「ピーーーーーーッ。」

コートに笛の音が鳴り響く。私達の夏は、その瞬間に終わった。一瞬で終わった。私が一番大嫌いで、そして大好きな、「バスケットボール」が。

私が「バスケ」という競技に出逢ったのは約二年三ヵ月前、中一の四月。別にバスケが好きだったからバスケ部に入ったのではない。部活動の紹介のとき、元気に笑顔で、そして楽しそうにプレーをしていた先輩方が私にはとてもかっこ良く見えた。きらきら輝いて見えた。こんな風になりたいと思った。だから、一番最初に入部届を出した。

その頃は、バスケが楽しくてしょうがなかった。授業終わったら走って体育館へ行き、練習した。バスケが大好きだった。

でも。そううまくいくはずなかった。夏休みになると、毎日が地獄のような日々だった。

元々、足の速くなかった私には、走るメニューは「苦」でしかなかった。部活が嫌で、嫌で、泣きながら部活に行った時もあった。私はこの時、バスケ部に入ってとても後悔していた。バスケがーーーーーー「大嫌い」になった。

いつのまにか、十一人もいた一年生が、二年生になると六人まで減った。

どうして、私は辞めなかったのか。「辞めたい」と思ったことは数えきれない程ある。

なぜ？それは一番に「行きたくない。」と言っても、「がんばれ、大丈夫。」と背中を押してくれた母。帰ってきた時、「がんばったな。」と温かく言ってくれる父。「卒部するまでがんばれよ！」と励ましてくれる兄。そしてきつい練習をしている時、「いけるいける！」と応援してくれる先輩。「一緒に頑張ろう」と励まし合える仲間。そんな人達がいたからこそ、私はここまでバスケを続けることができた。

二年生の夏休みを過ぎると、私はまた「バスケ」が大好きになっていた。

私がバスケで嫌いなことはきついこと。でも、大好きなことは全部。「嫌いなことはきついこと」って言ったけど、やっぱりそれも好き。大好き。仲間とやっていれば、きつくない。だからバスケは、大嫌いなようでーーーーーーーー本当は大好き。

私たちの目標は「市大会一勝」だったけどそれは達成できなかった。負けたことは悔しいけど、女バスケに入って後悔していない。

私はバスケが大好きだ。

一人の行動で雰囲気は変えられる

●照葉中学校3年　**中野　碧**

「最後の運動会、これで終わっていいのだろうか。」

私達三年生は、本来下級生を引っ張る立場であるのに、一番声が出ていない、行動が遅い、そして盛り上がりに欠けていた。私はこの状況に対し、とても焦りを感じており、どうにかこのやる気のない雰囲気を変えたいと思っていた。しかし、一人で大きな声を出すことへの羞恥心や、応援団でもない自分が一人で頑張ったってどうしようもないだろうという弱い気持ちが邪魔をして、なかなか行動に移せないでいた。

だが、運動会前最後の週末明け、本番まで残り五日となり、私は全てに全力を尽くすことを決めた。応援合戦は声が枯れるまで出した。行進や体操も、誰よりもきびきび動くつもりでした。運動は苦手だが、競技は精一杯取り組んだ。

最初の二日は、自分の周囲で何も変化が起こらず、

「やっぱり無駄か・・・。」

と、弱い自分に戻りかけていた。

しかし、変化は三日目の応援練習の時間に起こった。クラスの友達二人が、

「碧を見て私も声出そうって思った。」

と言って、私と一緒に本気で盛り上がってくれた。それに気付いた他のクラスメイトも、

「私も。」

「俺も。」

と一人、また一人と協力してくれる人が増えていった。今度は、みんなの雰囲気が変わったことに気付いた応援団が笑顔になり、より一層声を張った。そんな三年生のただならぬ気合いを感じたのか、後輩達も大きな声で歌い踊りも大きく踊り、やる気を見せ始め、私達赤組は、最初と比べ、確実に良くなった。

実際、応援合戦では、白組の方が優勢だと言われていた中、最後は赤組が勝利したのだ。

私はこの目で見た。感じた。自分の起こした行動が、徐々に周りの人を変えて、最終的にはみんなの力でとても良い雰囲気へと変わっていった光景を。

この体験から、たった一人の行動でも、全体の雰囲気を変え、団結の連鎖を生む力があることを知った。私は、周りへ良い影響を与えられる様に、何事にも前向きに取り組み、みんなが笑顔になれる雰囲気を作り出せる人間になりたいと、今強く思っている。

私の大好きなこと

●箱崎清松中学校3年　**松浦　矢苑**

八月二十三日の発表会に向けて、私達は今猛レッスンを積んでいる。半年前から始まった練習が、本番前一ヶ月をきると毎日三時間以上がレッスンになり、体も限界に近づいていた。

私は今十五歳で受験生だ。こんな大事な時期に習い事をしているのか。それは、将来なりたい職がそれだからだ。

まず、それと言うのは私が三歳の頃から始めたバレエのことだ。幼い頃からよく母にバレエの公演に連れて行ってもらっていた私は、その頃からバレエが好きだったようでいつもニコニコして舞台を観ていたそうだ。バレエを習い始めたのも、そのくらいの時だったと聞いた。その時私はまだ幼かったため、あまり記憶はないが、レッスンに行くことがとても楽しみで家ではいつもバレエのポーズをして写真を撮ってもらっていた。

それから、十五年間一度もバレエを辞めることなくずっと通い続けた。時には、辛くてレッスンに行くのも嫌だったこともあった。先生に怒られるのが嫌で、その事しか頭になかったことも。それでも、今まですっとバレエを習わさせてくれた親に申し訳なく、辞めたいとも言えず、バレエは楽しいんだと必死に自分に言い聞かせた。その後、バレエスクールを何度か変え、今のスクールにたどり着いた。今のスクールに来たのは三年前だが、友達や先生も変わって、毎日が新鮮な感じだ。もちろん、今はバレエに行きたくないなんて思うこともなくなったし、逆に新たに夢が出来た。それが、バレエダンサーだ。

この夢は、本当に厳しい世界のもので体型や骨格などの努力ではどうにもならない、限られた人しか生きていけないものなのである。体調管理はもちろん、体型をキープしたり筋力をつけるためのトレーニングを行わなければならない大変な世界だ。

今の私には、足りないものが多すぎると思う。それは、周りからも言われるし自分でも思うこと。努力だ。努力以外にもたくさんあるのだが、今一番の自分への課題はそれだ。

努力は、バレエの世界で生きていくためには絶対に欠かしてはならないもので、努力の上に花が咲くと言うことわざもあるくらいだ。つまり、努力をしないと花は咲かない。バレリーナにはなれないのだ。楽しいからと言う理由だけでは、到底バレリーナになんかなれるはずがない。

私はこれからも大好きなバレエを続けるために、努力を怠らずに夢に向かって突き進もうと思う。